

空間コードから共創する中川運河

都市コミュニケーション研究所 (代表 竹中克行)

空間コード研究は、中川運河のなりたちと将来に関心を寄せる異分野交流の研究プロジェクトとして始まりました。自然の川とも海に開かれた外港とも異なる雰囲気を感じ、そこでの人々の営みをひもとくことで、中川運河の「らしさ」を未来に継承したいという考えが私たちの活動を支えてきました。しかし都市は、過去が遺した作品を鑑賞するための博物

館のような空間ではありません。変化を重ねるなかで育つ個性こそ、生きた町の魅力があるからです。場所の来歴から文脈を読み取り、それを将来に繋ぐこと。そうした所業は、私たちのような研究に携わる者だけでなく、町とかかわる意思を有する多くの人々の発想力をもって、初めて成し遂げられるものと考えています。

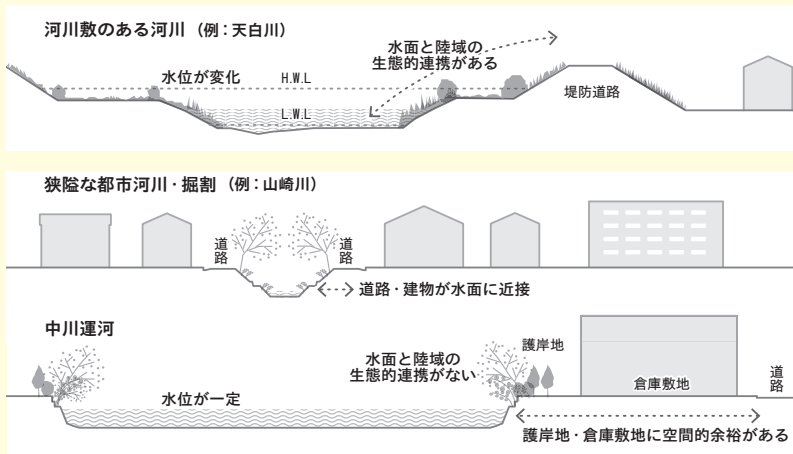


図1 水辺に発達したコリドー (回廊)

まれているのに対して、中川運河の場合、運河と一体で計画的に整備された両岸の敷地に空間的な余裕があります。その上に飛来する鳥が周辺市街地の植栽木から種子を運び、運よく発芽した幼木から、意図せずして迫力のある緑のコリドーが生まれました。中川運河は、生の自然に人間が手を入れることで新たな均衡に達した「セカンドネイチャー」だと言えないでしょうか。

②倉庫敷地の事業者のなかには、運河側に植栽を施すものもあります。これには、裏庭的な意味だけでなく、対岸から見られることへの意識が関係しているようです。本線で60~90mの幅員と軒高10m余りの大きな壁面という水辺の姿かたちゆえに、両

空間コードは、都市の「らしさ」を共有し、継承・進化させるためのコミュニケーションツールです。「らしさ」を見定めるために、私たちは、①都市のランドスケープ、②関係性の視覚的表れ、③「らしさ」を紡ぎ出す人々、という3つの切り口を設定しました。試しに、水辺としてみた中川運河の「らしさ」を上3つの切り口から考えてみましょう。この例を通じて、空間コードの考え方に少しでも馴染んでもらえれば幸いです。

①水辺とは、水域と陸域が接する空間のことですが、開門式の中川運河は、水位が一定に保たれた人工水路という、半自然的なランドスケープをなしています(図1)。そのため、上流から土砂や栄養分が供給される通常の河川とは違って、中川運河では、水域と陸域の生態的連携が生じにくく、河川敷にヤナギ群落などが形成されることはありません。他方、市街地を流れる多くの水路がコンクリート護岸と道路で挟



図2 水路幅と建築物のスケール

岸が過度に干渉することなく、互いに相手に顔を向けているような感覚が生まれるのでしょうか(図2右)。市街地の水路でも、小さな幅員の両側にマンションなどが屹立している場合は、プライバシー意識が先行して、対岸から目を逸らしたくなるかもしれません(同左)。中川運河のほとりで私たちが体感する「らしさ」は、土木のフレームと建築・緑の共演による部分が大きそうです。

③個性的な水辺の姿かたちは、未来の都市に対する私たちの期待や想像力を膨らませてくれます。そのさい、カタチを必然ならしめた人々による空間の使い方に関心を向けると、将来的な活用法を発見するためのヒントになります。水路とセットで並行する陸路が整備された中川運河では、水路と陸路が挟む倉庫敷地を借り受けた事業者が水陸「両A面」とも言うべき個性的な町をつくりました。また、コンテナを移し替えるだけの埠頭とは違って、水運と陸運を接続するための荷の組換えや搬入された原材料の加工が両岸の倉庫敷地で行われてきました(図3)。それはちょうど、水浴客が着替えたり濡れた身体を乾かすために利用する砂浜の働きに似ています。中川運河には、水陸の両方に接続し、モード転換を行うバッファゾーンが備わっているわけです。そうした共同利用空間を都市の資産として、次の時代に向けて進化させる知恵が求められます。

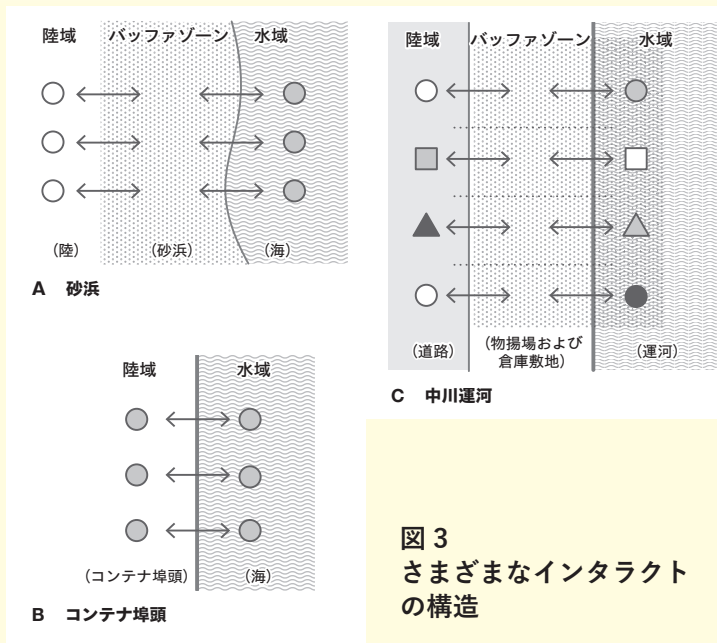
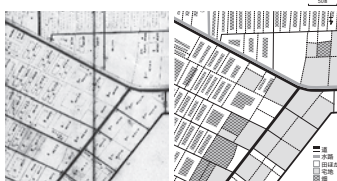


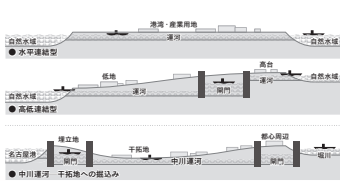
図3 さまざまなインタラクトの構造

中川運河らしさを生む 12 の空間コード

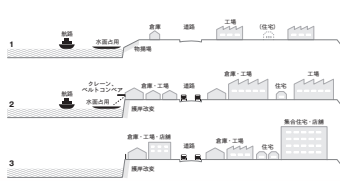
A1 海に向かう都市の層



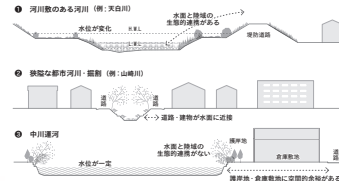
A2 開門式運河の水面



A3 人工の自然堤防



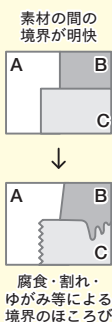
A4 緑のコリドー



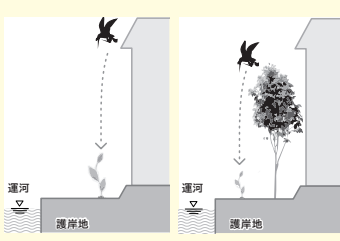
B1 運河を挟んで向き合う



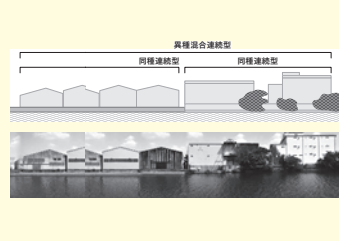
B2 インダストリアル空間



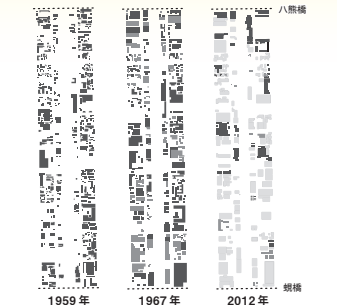
B3 鳥と風が運ぶ都市の緑



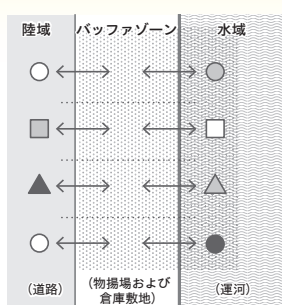
B4 連続体の美学



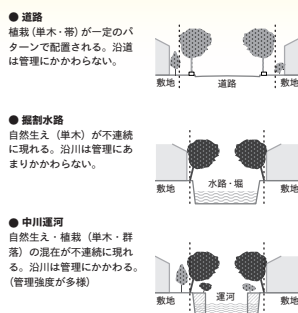
C1 名古屋の大静脈



C2 インタラクトする水土



C3 「自然」とのつきあい



C4 創造力の空間



空間コードから
共創する中川運河
「らしさ」のある都市づくり

竹中克行 編著

書籍では各コードの詳しい内容、空間コードを発見する方法、応用の可能性などを掲載しています

空間コードから共創する中川運河
——「らしさ」のある都市づくり

鹿島出版会（2016年2月刊行／A5版 224頁／本体 2,500円＋税）

編著者：竹中克行（地理学者／愛知県立大学教授）

執筆者（五十音順）：

内山志保／川口暢子／清水裕二／長谷川泰洋／クレメンス・メッツラー／横関浩

目次：

第Ⅰ部 空間コードとは／第Ⅱ部 中川運河を発見する／第Ⅲ部 中川運河の空間コード／第Ⅳ部 空間コードを発見する技／第Ⅴ部 空間コードの応用

